

## 京都薬科大学 国際化ビジョン

2006年度からスタートした6年制薬学教育課程の進行に伴い、本学を取り巻く教育環境、6年制薬学生の志向性、社会状況・ニーズは大きく変化している。近年我が国では、産業や人材活用におけるグローバル化が国家の成長戦略の一つとして掲げられ、大学の国際化が求められており、本学においても、国際交流の活性化や国家間の垣根を越えてグローバルに活躍できる薬事従事者の育成が急務となっている。それを受け、本学では、第2期中期計画において「大学の国際化および国際的に活躍できる人材の育成」をビジョンとして掲げたことから、本学における国際化達成のため、2014年4月1日付で国際交流センターおよび事務組織として国際交流推進室を設置し、次の9項目の施策を実行する。

### 【国際化推進のための9項目】

#### 1. 外国語教育の充実に向けたカリキュラム作りの推進

- ①2012年度から「第2外国語」において、従来のドイツ語に加え、中国語およびフランス語のクラスも開講し学生の選択肢を拡げた。これらのクラスは、文法・講読を中心としたものであるが、各言語の文化的背景等に関する知識の涵養も行い、学生の異文化に対する視野を広げる科目とする。
- ②薬剤師に必要な語学力と医療の進歩・変革に対応するための語学力養成教育である科学英語および専門薬学英語を1年次から、4年次まで履修させることで学修効果の高い英語教育とする。
- ③2013年度から導入した1年次、3年次および5年次の学生全員にTOEICを受験させるシステム（受験料は大学負担）を継続し、個々の英語力の向上および就職活動にも対応した支援を行う。
- ④2013年度から開始した「医薬品開発のためのサマープログラム」（医薬品開発業務受託機関との共催）は、外国語教育のみならず国際競争力のあるグローバル人材の育成も視野に入れた取組として継続的に実施する。

#### 2. 海外からの留学生の受入推進

- ①外国人留学生向け各種資料の英語版の作成および、それらを有効活用できる環境作りを行う。
- ②2013年度から、6年次の卒業論文発表会（ポスター発表）を英語で実施している。そして、この発表会に国際交流協定締結大学の教員および学生を招き、英語による卒業論文発表会の充実・活性化に努めている。日本人学生が国際的な感覚を身に付ける取組として今後も継続的に実施する。

#### 3. 学部学生の海外派遣推進

- ①ドイツのフライブルク大学が開催する「日本人のためのサマープログラム」の「海外語学研修」制度を利用し、毎年30名程度の学生を派遣する。
- ②アメリカ・マサチューセッツ州にある Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS) Worcester 校にて、実践的な英語力の獲得とアメリカの薬学事情の勉強を目的に、2015年度から独自に研修プログラム（期間：10日間程度）を実施し、毎年10名

程度の学部学生を派遣する。

③上記①、②合わせて、今後 5年間累計で200名の学部学生を海外に派遣する。

④高学年次における海外医療機関での研修実施を企画・検討する。

4. 4年制博士課程の大学院学生の海外派遣推進

- ・海外の大学および医療機関での研究・研修を目的とした留学制度 (期間:3~6ヶ月間程度) を活用し、国際的視野を広げる機会を継続的に提供する。
- ・今後 5年間累計で10名の大学院学生を海外に留学させる。

5. 教育職員の海外留学・研修制度の整備推進

- ・主に若手の教育職員の海外留学および海外研修 (期間:1~2年間) を引き続き奨励・支援する。

6. 海外の大学との協定締結推進

- ・現在、海外の3大学と国際学術交流協定を締結し交流を行っている。現在の協定締結は中国、タイおよびエジプトの大学である。今後は欧米の大学との協定締結も視野に入れ、5年後には10大学程度の大学と協定締結を目指す。

7. 英語版ホームページの整備推進

- ・既に英語版ホームページを公開しているが、さらに利用価値の高いものとするため、外国人留学生のニーズや、外部からのアクセスのしやすさを意識したホームページ作りを行う。

8. 在籍する外国人留学生と日本人学生との積極的な相互交流推進

- ・外国人留学生が学内で多くの日本人の友人を作ることができるように、また、日本人学生にとっても、国際性に富んだ交流ができるように、交流型イベントを企画・開催する。

9. 地域活性化に向けた国際交流機会の推進

- ・京菓祭(学園祭)を利用して、地域住民・留学生交流会(仮称)を開催(年1回)し、地域住民と留学生が交流することで異文化理解の促進と国際交流の機会を提供する。

以上